

# 令和5年度 学校評価

## 【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

・子ども達がみな仲良く楽しく、安全に過ごせるように努める。 ・学習の基礎・基本の充実と個性・能力の伸長を図る。

・地域に親しまれ、地域とともに協働する。

### 学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3.1	3
取組	成果	課題と改善策	
・「よりよい授業をめざして」ハンドブックの活用とともに一人一授業の取組を進め、授業力の向上を図った。 ・3～6年において「スタディプラン」を活用し、保護者と連携した家庭学習の習慣化を図り、学校生活に見通しを持たせた。 ・特別支援校内委員会において、特別な配慮を要する児童の情報や対応等について校内で共有を図った。 ・運動指導員の招聘やなわとび検定の実施等を通して、運動に対する意欲の向上を図った。 ・小中連携の取組の中で、合同研修会に参加した。 ・「幼保小連絡表」を作成し、近隣の幼・保育園へ配布し、接続交流連携を推進した。 ・電子黒板やデジタル教科書等、ICTを活用した学習指導を積極的に推進した。	・各種の学力調査を分析し、結果をふまえた学力向上のための取組を検討することができた。 ・全国学調の結果が改善し、ほぼ全国レベルとなった。 ・全国学調における「家で自分で計画を立てて学習している」割合が昨年度比約7ポイント改善した。 ・電子黒板やデジタル教科書が導入され、わかりやすい授業の展開に繋がった。 ・ランチルーム給食の再開や、長縄ジャンプへの取り組みなどにより、例年に比べて健やかな体作りに取り組むことができた。 ・体力テストの結果から、少しずつ体力が伸びてきていることがわかる。	・現在の1人1授業は、予め時間が決まっていますが、ある意味見られる準備ができていない授業になっている。普段の授業の改善をはかるのであれば、「誰かの授業を見に行く週間」のような期間を設定し、見に行きたい授業、改善の必要なクラスを見に行き、学び合う機会を作っても良いのではないかと。 ・あまっ子ステップ・アップでD層が増加している学年・教科がいくつかある。 ・特別支援学級の児童や通級・特別支援教育支援員の対象児童について、管理職を含めて全員で特性を理解し、支援していくことが大切である。 ・体力は少しずつ伸びているものの、全国平均と比較すると低い種目が多く、今後も体力の底上げが必要である。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		2.9	2
取組	成果	課題と改善策	
・年1回、保護者へ向けた道徳の授業公開を実施した。 ・児童の「いいところ見つけ」の取組を実施し、自尊感情の向上を図った。 ・学期に一回の生活アンケートを実施し、結果にもとづいて迅速に対応した。 ・月1回の生徒指導部会において児童の情報を共有した。 ・週2回の別室を開設した。 ・市教委の生徒指導担当指導主事によるいじめに関する校内研修を実施した。 ・不登校児童等への対応として、関係機関(ほっとすてっが等)との密な連携を図った。	・児童の問題行動について、教師間で情報共有が速やかに行われる体制ができてきた。 ・互いを認め合う、気持ちの良い言葉がけをする児童らが増えてきたように思われる。 ・いじめの認知件数が一昨年度、昨年度と増加しており、いじめに対する感度が高まってきている。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる校内研修を実施したことにより、様々な対応に関する知見を深めた。 ・ほっとすてっがなら出席できる児童もおり、そこで短時間ではあるが学習活動を進めることができた。	・性の多様性への理解を促す取り組みを推進していく必要がある。 ・不登校児童数は昨年度と比較すると増加している。 ・低学力も不登校の原因の一つであると考えられるので、低・中学年のうちに意欲をなくしてしまわないように支援していく必要がある。また、低学年のうちに家庭学習の習慣を身に付けさせることが大切である。 ・キャリアパスポートをもっと有効活用する必要がある。 ・生徒指導事案等について、より一層、家庭との連携を密にして対応していく必要がある。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	3
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス(非違行為・情報管理・ハラスメント等)に関して、具体的な事案を踏まえた校内研修を1年間を通して実施した。</li> <li>・月曜17:30定時退勤、木曜ノー会議デー、年次休暇10日間取得・出退勤システムを活用した勤務時間の適切な管理と状況に応じた職員面談を実施した。</li> <li>・業務改善部会を設置し、学校ルールブックの作成や校務のICT化の推進等に取り組んだ。</li> <li>・各種行事における地域住民の参加が復活した。</li> <li>・学校評議員会を学期に一回実施した。</li> <li>・地域学校協働活動コーディネーターと連携し、学期に一回、見守り活動会議を実施したり、昔遊び活動において地域からゲストティーチャーを招聘したりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に続き、地域の方に昔遊びを教えていただき子ども達にとって良い学びの時間となった。</li> <li>・昔遊びで地域の方がきてくださったり、見守り活動をしてくださることで子どもたちの安全が守られていた。</li> <li>・地域の方やPTAの方々に学校に来て頂く機会が増えた。</li> <li>・参観の時に魚を捌く授業があり、その際、保護者も児童も生き生きと活動していた。</li> <li>・出退勤システムが導入されたことにより、時間を意識した働き方ができるようになった。</li> <li>・コンプライアンスに関する校内研修では、セルフチェックに取り組む等、講義形式だけにならないよう配慮した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の授業に参加してもらう機会を増やすなど、もっと、家庭と学校が近くなる取り組みがあっても良い。</li> <li>・業務改善部会という会自体が、「それに時間を充てなければならぬ」という負担を作ってしまったのではないかな。</li> <li>・もっと地域の活力を活用できるようなシステムができれば良い。</li> <li>・保護者に学校の取組をより一層知ってもらう手だてが必要である。</li> <li>・コンプライアンスに関する校内研修は、今後も実施していく必要がある。</li> <li>・学校ルールブックを、校内で統一した対応ができるように活用していくことが重要である。</li> </ul>	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.0	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に一回、地区活動を実施した。</li> <li>・生活安全課を招聘し、交通安全教室を開催した。</li> <li>・学期に一回、地域の見守りボランティアの方々との会議を実施した。</li> <li>・防犯カメラを増設した。</li> <li>・危機管理マニュアルの見直しを図った。</li> <li>・学期に一回、防災訓練を実施した。</li> <li>・4地区(道意・元浜・武庫川町・大庄西)合同の自主防災訓練の会場とし、地域防災との連携を図るとともに、学校の防災拠点としての機能を地域とともに高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣での不審者情報に敏感に対応、共有、発信していた。</li> <li>・保護者を含めた避難訓練が再開されたのが良かった。</li> <li>・不審者情報が入ったり、帰りが遅い児童がいたりした時に、すぐに見回りを行う体制ができています。</li> <li>・元旦に起きた悲惨たる能登震災を経て、児童らがとても真剣に1.17の防災訓練に取り組んでいた。</li> <li>・校長をはじめ多くの教職員が「命の大切さ」を通年伝えていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は周囲を大きな道路に囲まれており、交通安全の確保が恒常的な課題である。関連する様々な取組を今後も継続していくことが重要である。</li> <li>・不審者対応の観点から、授業中、教室の後ろの鍵は開けておく必要がある。</li> <li>・児童の防災への意識をこれからも高めていく必要がある。</li> <li>・南海トラフ巨大地震がくることはほぼ確実なので、より南海トラフを想定した訓練があれば助かる命が増えるのではないかな。</li> </ul>	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.8	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書、昼帯学習(計算・漢字)、週一回の放課後学習、月一回のわかば西検定(計算・漢字)、「学習の手引き」作成と週一回以上の自主学習に全校で統一的に取り組んだ。</li> <li>体育委員会を中心として、なわとび検定や、わかば西長縄ジャンプ∞(エイト)の取組を実施した。</li> <li>保健だよりや給食だよりの配布により、保護者への啓発を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帯学習を統一したものにすることで、系統立てて基礎的学習を行うことができた。</li> <li>学習に向かう姿勢は、2年前より良くなっている。</li> <li>わかば西検定の達成率の掲示をすることで、子どもたちにも意識が芽生えていた。</li> <li>わかば西検定が定着し、計算については力がついてきたことが感じられた。漢字についても少し力がついてきている。</li> <li>放課後学習の時間を使って、個別に行うことができ、「分からない」→「わかる」ようになった児童もいる。</li> <li>保健だよりや身体測定の時など、体のことについて大切さを伝えてきたことが生活に生かされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新校舎になってから6年目となり、各所に少しずつ汚れが見られるようになってきた。清掃指導の充実を一層図る必要がある。</li> <li>地域の見守り活動の方々に対して等、授業の始めと終わりだけでなく、様々な場面でしっかりと挨拶ができるよう指導する必要がある。</li> <li>縦の繋がりが(学年間の学びの繋がりを意識した学習活動への取り組みが難しかった。</li> <li>学級運営の方法について、もう少し統一をはかる必要があるのではないかと。</li> <li>基礎基本をおさえるのに時間がかかり、発展的なものに広げることができていない。</li> </ul>	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.9	2
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマ「自分の思いや考えを言葉にし、相手と考えを共有する子どもの育成をめざして～みんながつながるコミュニケーション能力を育てる～」</li> <li>国語科「話す・聞く・話し合う」領域を中心とした研究を推進した。</li> <li>子どもの「話す・聞く」意欲を高める題材と学習過程の工夫に努めた。</li> <li>「学習のきまり」を教室に掲示し、学習規律とより良い生活習慣の確立を図った。</li> <li>自分から伝えたいという意欲を育む手立てのひとつとして、「自主学習ノート」の取組を進めた。</li> <li>関西大学付属初等部から講師を招聘し、校内研究に関する指導・助言をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが自分の意見を持って発言したり行動したりする場面が多く見られるようになってきた。</li> <li>国語だけでなく、どの教科についても、話し合いを意識して学習を進めることができた。</li> <li>ペアトークやグループトークを意識して取り組み、その流れができつつある。今後も取り組みつつ、改善をしながらレベルを上げていきたい。</li> <li>話し合い活動をどの教科にも意識して取り入れ、自分とは違う意見を交流し学習を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常日ごろから賛同意見と反対意見を聞く力とそれをどう解決していくか。その力量アップへの具体的な取り組みが必要である。</li> <li>児童が主体的に学習を進めることができるような場面の設定や発問の工夫がより一層必要である。</li> <li>普段の授業で校内研究の内容ををさらに意識する必要がある。</li> </ul>	